

国立病院機構熊本医療センター

No.203



くまびょう NEWS

NHO KUMAMOTO MEDICAL CENTER KUMABYO NEWS

発行所
国立病院機構熊本医療センター
〒860-0008
熊本市中央区二の丸1番5号
TEL (096) 353-6501(代)
FAX (096) 325-2519

本年度も臨床研修医を迎えました



今年も全員が国家試験に合格し、医科20名、歯科2名の元気な新研修医を迎えました。内訳としては、医科で総合臨床研修プログラム14名、救命救急集中治療臨床研修プログラム2名、協力型として熊本大学から総合臨床研修プログラム1年次2名、2年次2名、また歯科口腔外科研修プログラムの2名になります。当院持ち上りの2年目16名（総合臨床研修14名、救命救急研修2名）と併せて総勢38名の研修医を預かることになり、現在、医局は大変活気に溢れております。4月1日から約1週間に渡って実施されたオリエンテーションやガイダンス、また各部門別の実習も終了し、現在、各科での研修が開始されたばかりです。新研修医の初々しく率直な振る舞いに、一方で自らを顧みる

良い機会にもなっております。当院での研修を希望した皆の期待を裏切らないよう、さらに素晴らしい研修プログラムの構築を目指して努めて参りたいと思っております。

また、本年度も地域密着型の地域医療研修につき、協力施設の先生方をはじめ地域の先生方には厚くお礼申し上げます。医師にとって地域医療は、皆が医師を目指した頃の原点と思えますし、また、患者に最も身近で接する先生方の医師精神を肌で感じ、研修医が自身の将来像を探す大事な機会になります。いろいろとご面倒をお掛けすることと思っておりますが、ご遠慮無くご指導お願い致します。

(教育研修部長 大塚 忠弘)

基本理念

最新の知識・医療技術と礼節をもって、
良質で安全な医療を目指します。

運営方針

1. 良質で安全な医療の提供
2. 政策医療の推進
3. 医療連携と救急医療の推進
4. 教育・研修・臨床研究の推進
5. 国際医療協力の推進
6. 健全経営

患者様の権利

1. 良質かつ適切な医療を公平にうける権利があります
2. ご自身の医療について理解しやすい言葉と方法で十分な説明と情報を受ける権利があります
3. 病院から説明と情報を得た上で、自らの意志で治療を受け、あるいは選択し、拒否する権利があります
4. 自分の診療記録の開示を求める権利があります
5. セカンド・オピニオンを求める権利があります
6. 個人としての人格の尊重とプライバシーの保護を受ける権利があります



「未来予想図・医療と介護編」

アクアつかさクリニック
院長 藤本 英司



熊本市の北東部、あと数分歩くと合志市という地区で診療をしております、アクアつかさクリニックの藤本と申します。

熊本医療センターの先生方と医療スタッフの方々には特に2次救急でお世話になっております。私事ですが特別養護老人ホームの配置医師を20年やっておりまして、今まで幾度となく急変患者さんを受け入れていただきました。最後の砦と頼みにしておりますが、昨今の高齢化に伴う夜間休日の救急業務の負担増、これは周辺地区の開業医等も少しでも基幹病院の負担減、医療資源の有効活用の方へ協力さ

せて頂きたいものと考えております。

話は変わりますが、ニコニコ動画で有名な会社が棋士と将棋ソフトの対決、電王戦というのをネット上で公開して、私も人類代表のプロ棋士の方々を応援しております。

2012年に故米長邦雄永世棋聖とボンクラーズの対戦に始まった電王戦、今年は第3回が行われています。いまこの文章を書いている時点では最終結果は判明していませんが、特にコンピュータソフトは中盤以降ミスはほとんどありえません、特に最終盤の局面では無双といってよいかもしれません。対する人間代表の棋士の方々はなんとかこの状況を打開しようと正直苦戦しておられます。

チェスの世界では既にAIは人間のレベルを超えてきましたし、羽生善治九段がコメントされていますが、「21世紀は機械が人間を超えていくのを認めていく百年でしょう」という言葉に深く納得する次第です。

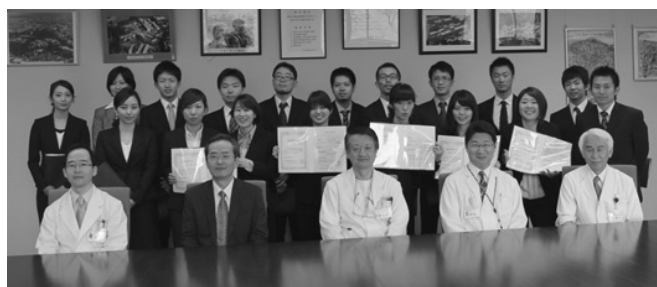
医療分野でも医療支援ロボットによる医療行為が少しずつ実用化されています。ダヴィンチという内視鏡下手術支援ロボットがこの熊本にも先年導入されまして、現在の所は保険適応が限られている状況ですが、長期的な視野で考えると、診断・治療ともにこの領域はどんどん実用の範囲が広がっていくことは今後の趨勢ではと思われます、今後介護支援ロボット等も順次投入されていくことでしょう。

医療・介護の面で今後業務内容も時代と共に変わっていくことではと思いますが、病診連携が大事であることは今後も変わることはないでしょう、どうか宜しくお願い申し上げます。

「臨床研修修了式」が行われました

平成26年3月20日に、基幹型研修を受けた総合臨床研修プログラムの医科16名（24年度開始）および歯科口腔外科プログラムの2名（25年度開始）の計18名の臨床研修修了式が執りおこなわれ、河野文夫病院長より修了証が授与されました。修了証を手にする姿は自信に溢れ、医師として実に逞しく成長した姿は本当に眩しいばかりでした。ご指導を頂いた地域の先生方および当院の先生方には厚くお礼申し上げます。今後の事務手続きとしては、医師臨床研修修了登録証交付申請書、臨床研修修了証の写し、医師免許証の写しを地方厚生局へ提出し第2回目の医籍登録が終了します。これで晴れて彼/彼女らは医師として診療に従事できるようになり、病院又は診療所の管理者となることが可能となります（基礎研究など診療に従事しない場合には臨床研修を受ける必要はありません）。

修了証授与の同日夜には修了祝賀会が、病院長をは



臨床研修を終えた医師達と記念撮影

じめ指導医の先生方のご参加のもとに午後7時より交通センターホテルにて賑やかに開催されました。祝賀会を楽しく思い、また、寂しくも感じたのは私だけではないと思いました。願わくば、いつまでもこの研修医時代の謙虚さを忘れず患者に寄り添えるような素晴らしい医師に育って欲しいものです。

（教育研修部長 大塚 忠弘）

就任のご挨拶



事務部長
うちだ まさあき
内田 正秋

この4月期の異動で転任して参りました事務部長の内田でございます。

どうぞよろしくお願いいたします。

医療機関等の先生方をはじめ関係機関の皆様方におかれましては、日頃より当熊本医療センターの運営にご厚情を賜り心より厚く御礼を申し上げます。

私は、県北部の玉名の出身で、これまでの人生の約半分は、この熊本の地で過ごしましたが、国立病院に就職後、今回初めて熊本県内の病院で勤務が出来ることを感謝している次第です。

私の主な略歴は、国の行政機関（医療・薬事監視）

で約3年、国立病院で約14年、国立病院統括事務局で約16年間勤務して参りました。

当院に赴任後、窓から県営藤崎台野球場が見え、野球を追いかけていた高校時代をなつかしく思い出したところです。

思い起こせば高校時代、当時の「熊病」には、患者家族としてお世話になりましたが、今の「熊本医療」に変貌するとは、想像もつきませんでした。そこには諸先輩方の並々ならぬご苦労があったものと推察いたします。築き上げられた財産を大切に継承したいと思います。

また、ひとえに地域における各先生方、関係機関の皆さん方のご理解とご支援があり、熊本医療センターが発展したものと思います。この熊本の地におきまして、皆様方と共に益々愛される医療機関となるよう努力して参りたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。



副看護部長
いのうえ みつこ
井上 光子

4月1日付けで九州医療センターから副看護部長に昇任で参りました井上です。どうぞよろしくお願いいたします。

熊本医療センターと聞くと救急医療で24時間フル回

転しているイメージがありましたが、赴任してからの熊本医療センターの印象は、職員の皆さんがいつでもどこでもどの方でもよく挨拶を交わされ、とてもよい雰囲気であることを感じました。熊本の地での勤務は初めてで不安と緊張でいっぱいでしたが、皆様方のあたたかい笑顔と人柄を感じ、この病院、この土地で働くこととなり、良かったと思っています。熊本型の地域連携を学ばせていただきながら、地域の急性期中核病院として皆様方との連携を図っていきたいと思います。微力ではありますが努力してまいりたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

私のお勧めの一冊

「造血幹細胞移植の看護」改訂第2版

監修：河野文夫 編修：日高道弘 高尾珠江

初版は今からちょうど10年前、2004年に河野文夫現院長と当時の岡野千代美西一病棟師長により編集、刊行されました。看護スタッフの技術や知識の積み重ねが異動によって失われることのないように、いわば移植チーム看護マニュアルとしてまとめられたものでした。この試みは多くの医療者に受け入れられ、最近まで血液関連の刊行物の中で常に販売数上位を占めていました。ここにご紹介するのは改定版（2014.3）で、コンセプトは「移植病棟に初めて勤務する新人看護師さんにも受け入れられるように」であり、イラストや図を多用しわかりやすい解説につとめています。ご一読いただければ幸いです。



（血液内科部長 日高 道弘）

チーム医療紹介

糖尿病教室チーム

糖尿病は自己管理の疾患であり、糖尿病に関する知識と治療に関する技術の習得はとても重要です。当院における糖尿病教室には入院患者に対する「やさしい糖尿病教室」と、糖尿病患者会（ぎんなん会）との共催による外来と入院患者に対する「季節ごとの糖尿病教室」の2種類の糖尿病教室があります。

「やさしい糖尿病教室」は毎週（水曜日午後2時30分～4時、金曜日午後3時～4時30分）、各担当者（医師・看護師・薬剤師・管理栄養士・検査技師）から病態・合併症・日常生活・薬・食事・検査について解りやすく行っています。

「季節ごとの糖尿病教室」は春・夏・秋の年3回行われており、網膜症・腎症・神経障害・脳卒中・心筋梗塞・足壊疽・歯科疾患などの合併症に関する話題を専門医からしていただくとともに、薬物療法・食事療法・運動療法・検査値の見方などを専門職種より話してもらっています。また、アンケートや質問タイムさらには試食会(無料)を行っています。

いずれの教室も参加者とのコミュニケーションを大切にしながら楽しく学べるように心がけています。院外からの参加も受け付けていますのでご希望がありましたらご連絡ください。

(糖尿病・内分泌内科部長 豊永哲至)



やさしい糖尿病教室（教室の様子）

「やさしい糖尿病教室」スケジュール

水曜日	14時30分～15時	糖尿病と日常生活	看護師
	15時～16時	糖尿病とは	医師
金曜日	15時～15時15分	糖尿病と薬について	薬剤師
	15時15分～15時30分	糖尿病の検査について	検査技師
	15時30分～16時30分	食事療法について	管理栄養士

第71回 秋の糖尿病教室プログラム

日時	H25年10月16日	水曜日
教室受付開始	11:50	
試食会	12:00～	教育研修棟 1階食堂
教室開講	13:00	
場所	地域医療研修センター 2階 研修室 2	

- (1) アンケート報告 (10分) 内科部長 東 輝一朗
- (2) 糖尿病とは (20分) 糖尿病・内分泌内科部長 豊永 哲至
- (3) 糖尿病との上手なお付き合い (20分) 6北病棟看護師 宮木ゆかり
- (4) ぎんなん会より一言 (10分)
- 休憩15分 (14:05～14:20)
- (5) 運動療法のワンポイントレッスン (15分) 理学療法士 田所 広太
- (6) わかりやすい糖尿病の検査 (10分) 臨床検査技師 濱口 絵実
- (7) 糖尿病の食事療法～塩分管理～ (15分) 管理栄養士 池田かおり
- (8) 特別講演 (15:00～15:30) 「糖尿病腎症について」 (30分) 腎臓内科部長 富田 正郎

質疑応答	15:30～15:50
アンケート	15:50～16:00



上：季節の糖尿病教室（教室の様子）



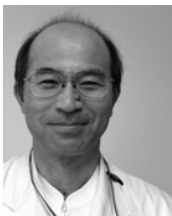
左：試食会の様子

下：試食会の食事（秋の糖尿病教室）





部長
渡邊 健次郎 (わたなべ けんじろう)
精神神経一般、うつ病、
リエゾン精神医学、精神科救急
精神保健指定医



医長
山下 建昭 (やました けんしょう)
精神神経一般、うつ病、緩和ケア
精神科救急
精神保健指定医



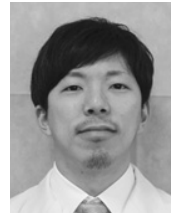
医長
橋本 聡 (はしもと さとし)
精神神経一般、パーソナリティ障害、
リエゾン精神医学、精神科救急
日本救急医学会専門医
精神保健指定医
日本精神神経学会専門医

診療内容と特色

精神病床50床を有する総合病院の中の精神科であり、当院の他科との連携を密にして精神障害と身体障害を同時に有する合併症の患者の治療を行っております。また、当院が救急医療に積極的に取り組んでいることから、精神科関連の救急患者様についても対応しております。さらに、最近増加傾向にある、自殺企図および自傷行為に対しても、身体的対応が一段落したあとに精神的に介入することで再発の防止や問題の解決に当たっております。また、一般外来での診療につきましては、うつ病をはじめとして精神疾患の外来治療を行っております。また、院外の病医院および老健施設から多くの患者様のご紹介をいただいております。



医師
吉田 庸子 (よしだ ようこ)
精神神経一般、リエゾン精神医学、
心療内科、緩和ケア
日本医師会認定産業医



医師
徳山 祥音 (とくやま しょういん)
精神神経一般



医師
森枝 悟 (もりえだ さとる)
精神神経一般

診療実績

平成24年度

- 一日平均外来患者数：47.7名
- 精神科外来新患数：832名
- 精神科病棟入院患者数：918名
(内訳：精神症状 272名、合併症 504名、自傷行為 142名)
- 平均在院日数：20.3日
- 精神科関連救急患者数：1,036名

教育研究

日本総合病院精神医学会、日本精神科救急学会、熊本精神神経学会などへの研究発表を行っております。また、講演会を通じて精神科救急や、メンタルヘルス、うつ病などについての啓蒙を行っております。

研修実績

患者様につきましては、診療情報提供書や、電話などでご紹介くださいますようお願いいたします。救急症例の場合はいつでも結構です。

その他、お困りのことがありましたらいつでもご連絡下さい。

熊病の歴史

循環器内科

熊本大学の循環器内科は、第一内科、第二内科、第三内科、体質医学研究所成人科で循環器グループが、それぞれ診療を行っていましたが、1983年12月に初代

秦江弘文教授が就任し新設されました。新設されたといっても講座でなく診療科でした。その後、1993年4月に講座となり、1998年4月に第2代 小川久雄教授が就任されました。現在、同門も257名となり、5個の寄付講座（不整脈先端医療講座、心血管先端医療講座、循環器臨床研究先端医療講座、循環器予防医学先端医療講座、心不全先端医療講座）も設立されています。

一方、当院において循環器内科の歴史は、非常に古く、1954年に成人病対策の一環として池崎英文初代医長が就任し高血圧症センターが設置されたのが始まりです。1955年に福満昭二先生が赴任し、その後、福満昭二先生と交代で里先生が赴任されました。1961年池崎英文先生の後、里先生、橋口純先生、小林寿一先生が医長に就任しました。1967年10月正式に循環器科が新設され、原口義邦先生が医長に就任されました。1968年1月に谷口正信先生、1969年古賀毅先生が赴任し3名体制となりました。1970年初めて右心カテーテル検査を行うようになり、右山尚史先生が赴任されました。1971年谷口正信先生と交代で石原章先生、古賀毅先生と交代で川口憲司先生が赴任されました。1973年に右山尚史先生中心に、熊本県で初めて電気生理学的検査を開始し、ペースメーカー植え込み術も開始しました。また、1975年に右山尚史先生中心に、熊本県で初めて冠動脈造影検査を開始しました。その後、光藤担先生、藤岡俊宏先生、徳永雅実先生、平原謙一先生、矢野智彦先生、福光圭輔先生、林田公夫先生、高橋毅先生、和氣仲庸先生、白尾友宏先生が赴任されました。1986年以降、熊本大学循環器内科から派遣が始

まり、六反田学先生、宮城宏生先生、山部浩茂先生、末藤久和先生、菊田浩一先生らが赴任されました。1997年には熊本大学代謝内科から循環器内科派遣の最後となる小堀祥三先生が赴任されました。また、新研修制度開始以降、当院で研修した多数の先生が、熊本大学循環器内科に入局し、再度、当院で後期研修を行っています。

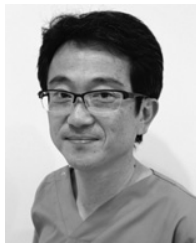
山部浩茂先生（現不整脈先端医療講座教授）赴任時、不整脈に対するカテーテルアブレーション術を行っていました。最近では2000年2月からモービルCCUが24時間運行可能となり、2006年10月から大型の新規車両が追加されました。心臓カテーテル検査、治療が増加してきたため2001年4月1日から心臓専用シネアンギオ装置が増設されました。さらに2009年9月新病院移転時にCCU（4床）が新設、冠動脈CTが開始され、2011年7月に心臓専用シネアンギオ装置更新されました。

現在5人のスタッフで1年間に経皮的冠動脈形成術約250例、経皮的血管形成術 約30例、ペースメーカー植え込み術（ICD、CRTP、CRTDを含む）約80例、急性心筋梗塞 約130例の治療を行っています。また、2002年11月から血管新生療法を開始し、2006年8月に高度先進医療の承認を受け、現在までに50例施行しました。

新病院になりCCUが新設され、重症の症例の受け入れがよりスムーズなり、救命できるようになりました。5人という少ないスタッフですが、先進的で安全な医療ができるよう、また、初期研修医の先生が、有意義な研修ができるように努力して参ります。

【循環器内科部長 藤本 和輝】

最近のトピックス



麻酔科部長

瀧 賢一郎

【超音波ガイド下周術期神経ブロックと局所麻酔薬中毒の新しい治療法】

麻酔科医は手術をおこなう際に必要な麻酔医療を専門的に担当しています。ただ単に麻酔薬を投与して監視しているだけではなく、手術という侵襲的な医療をどうケア、サポートすれば、good outcomeにつながるのかという命題を常に探究しています。しかし麻酔に関連した副作用や合併症はできるだけ避けなければなりません。その低減化のために薬剤・手技の改良、機材の開発が続いています。

近年、周術期の肺血栓塞栓症は、手術は成功したとしても一端発症すれば不幸な転帰をとることもあり、とても注目されるようになりました。血栓塞栓症リスクに応じた対応マニュアルが当院でも作成されています。その中で手術時に抗血栓療法や抗血小板療法を継続したまま手術をおこなう、または短期間のみの中止でリスクを低減化することも外科領域では当然のこととしておこなわれるようになりました。くも膜下腔、硬膜外への穿刺やチューブ留置、抜去に関連して、脊髄周辺への出血の可能性のある薬剤の中止・再開については細心の注意が必要であり、施行が困難な手術症例も増加しています。

比較的大きな末梢神経幹を局所麻酔薬でブロックし、その末梢側の手術をおこなう手技は体表の特定の位置から神経へアプローチするランドマーク法による神経ブロック法（区域麻酔法）として確立されていました。しかし針の先端は盲目のままであったため、常に神経損傷のリスクがあり、また比較的多量の局所麻酔薬を使用するために血管誤注入による局麻中毒の危険性が伴っていました。近年、画像解像度の向上により超音波エコーで神経も描出できるようになったのをきっかけに、超音波ガイド下神経ブロック手技が周術期疼痛管理法の一つとして普及しています。エコーで実際の組織、血管、神経を描出すれば、安全に針先を神経近くまでアプローチさせることができるわけですから、確実性、安全性、施行者の安心感も格段に向上しています。本年からは日本区域麻酔学会も発足しました。



超音波ガイド下神経ブロックの様子

【新しい局所麻酔薬中毒(LAST:local anesthetic systemic toxicity)に対する治療法】

局所麻酔薬中毒では、けいれんや重症例では心停止など重篤な副作用が発生することがあります。区域麻酔法は比較的多量の局所麻酔薬を神経幹周囲に注入するため局所麻酔薬中毒にはやはり注意が必要です。発症すればベンゾジアゼピン系薬剤による痙攣抑制および基本的な蘇生法をおこなうのですが、現在新しい治療法としてlipid rescueという方法が注目されています。具体的には局麻中毒症状が現れたら、血中濃度を低下させるために比較的急速に脂肪製剤を静脈内投与する方法です。現在手術室内にもすぐに使用できるよう脂肪製剤を常備するようになりました。

表1 lipid rescueの方法

<20%脂肪乳剤を静脈内投与>

- 1) 1.5ml/kg(除脂肪体重換算)を1分以上かけて初回ボラス投与
- 2) 0.25ml/kg/minで持続投与(18ml/minまで)
- 3) 循環虚脱が継続する場合、再度ボラス投与を2回まで
- 4) 血圧低値が続く場合は持続投与量を2倍にして0.5ml/kg/minに増量
- 5) 循環安定が得られた後も少なくとも10分間は持続投与を継続
- 6) 最初の30分で10ml/kgを超えないようにする
(American Society of Regional Anesthesia and Pain Medicine.Checklist for treatment of local anesthetic systemic toxicityより)

いま、国立病院機構
熊本医療センターで
何が研究されているか

シリーズ84回

太白ゴマ油と殺菌効果のある含嗽水を併用することによる口臭軽減の効果の比較検討

7西病棟看護師 工藤美里、上田奈々枝、小嶋あゆみ、西山慎吾、田中幸子

消化器内科・呼吸器内科病棟は絶食や経管栄養にて治療を行っている患者が多く入院されています。歯磨き粉を使用した口腔ケアを1日3回行っていますが、口臭が強い患者が多数います。先行研究ではイソジン・穀物酢・緑茶には口臭軽減、殺菌作用が証明されており、平成21年度当病棟の研究で太白ゴマ油を用いた口腔ケアは保湿効果があると証明されました。このことから、太白ゴマ油と口臭予防・殺菌効果がある含嗽水(イソジン、穀物酢、緑茶)を併用することで、口臭を軽減できるのではないかと考え、どの組み合わせが口臭軽減に効果があるか比較検討するために以下の研究に取り組みましたので、ご紹介します。

【目的】自己にて口腔ケアができない患者に、殺菌作用のあるいずれかの含嗽水(イソジン・穀物酢・緑茶)をそれぞれ保湿効果のある太白ゴマ油を併用して、どの組み合わせが一番口臭及び口臭の原因(舌苔・乾燥・喀痰)の軽減に効果があるか明らかにします。

【方法】絶食または経管栄養をしている患者を太白ゴマ油とイソジン・太白ゴマ油と穀物酢・太白ゴマ油と緑茶の3群に分け、1日3回7日間口腔ケアを行いました。「清掃手順書」を作成し手技を統一しました。口腔内の評価は口臭、舌苔、乾燥、喀痰の4項目を指標にする口腔ケア評価基準を参考にし、口腔ケア実施前に評価しました。①各群それぞれ口臭・舌苔・乾燥・喀痰の4項目の口腔ケア施行前後を、ウィルコクソン符号付随順位和検定を用いて比較しました。②3群の効果を、クラスカル・ワーリス検定を用いて比較しました。

【結果】①各群の口腔ケア施行前後を比較した結果、有意差はみられませんでした。②3群を比較した結果、有意差はみられませんでした。口臭において口腔ケア施行前後の評価点数が改善していた人数が最も多かったのは、緑茶でした(表4)。

【考察】表3より緑茶を使用することで有意差は得られませんでした。口臭に対して他群と比較すると若干の効果が見られました。これはカテキンの作用により口臭軽減が図れたのではないかと考えます。表4より3群を比較し口臭について検証すると、口臭に対して最も効果が期待できるのは緑茶であり、口臭の原因である舌苔・乾燥に対しては穀物酢に効果が期待できると考えます。

【結語】3群とも口臭軽減に大きな変化は見られず、太白ゴマ油と含嗽水の併用でどの組み合わせが口臭軽減に有用であったかは明らかに出来ませんでした。口臭に対し最も効果が期待できるのは緑茶でした。

今回の研究で有意差は見られなかったが、対象の条件を絞り、症例数を増やし、ケア効果を検証していきたいと思えます。

表1) イソジン群の施行前後の比較

対象者	口臭		舌苔		乾燥		喀痰	
	施行前	施行後	施行前	施行後	施行前	施行後	施行前	施行後
a	2.0	2.2	1.0	1.5	1.0	1.2	3.0	3.0
b	1.0	1.0	1.0	1.1	1.0	1.0	1.0	1.3
c	1.0	1.1	1.0	1.3	1.0	1.1	1.0	1.0
d	3.0	1.6	3.0	1.4	1.0	1.2	2.0	1.2
e	1.0	1.0	1.0	1.1	1.0	1.0	1.0	1.0
f	3.0	2.9	2.0	2.8	2.0	2.9	2.0	2.2
g	1.0	1.8	3.0	2.2	4.0	2.8	3.0	2.7
h	2.0	2.8	2.0	2.5	2.0	3.2	2.0	2.4
	P値(0.05)<0.5		P値(0.05)<0.67		P値(0.05)<0.25		P値(0.05)<0.91	

表2) 穀物酢群の施行前後の比較

対象者	口臭		舌苔		乾燥		喀痰	
	施行前	施行後	施行前	施行後	施行前	施行後	施行前	施行後
r	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0
s	2.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	2.0	1.7
t	2.0	1.1	1.0	1.1	1.0	1.0	1.0	1.0
u	1.0	1.0	1.0	1.3	1.0	1.0	1.0	1.4
v	4.0	3.4	3.0	2.0	4.0	2.2	1.0	2.0
w	1.0	1.0	2.0	1.9	1.0	1.1	1.0	1.0
x	2.0	1.5	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.3
y	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.1	1.0	1.6
z	1.0	1.3	2.0	1.7	1.0	1.0	1.0	2.7
	P値(0.05)<0.116		P値(0.05)<0.35		P値(0.05)<1		P値(0.05)<0.07	

表3) 緑茶群の施行前後の比較

対象者	口臭		舌苔		乾燥		喀痰	
	施行前	施行後	施行前	施行後	施行前	施行後	施行前	施行後
i	1.0	1.0	2.0	1.2	1.0	1.0	1.0	1.0
j	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.4	1.0	2.8
k	1.0	1.0	2.0	1.0	2.0	1.0	2.0	3.0
l	3.0	1.9	1.0	1.4	2.0	1.3	3.0	1.2
m	1.0	1.1	3.0	1.7	1.0	1.4	1.0	1.0
n	4.0	2.7	2.0	1.2	2.0	1.0	1.0	1.0
o	3.0	2.7	2.0	2.2	1.0	2.1	2.0	2.0
p	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0
q	2.0	2.2	1.0	1.0	1.0	1.3	1.0	1.0
	P値(0.05)<0.22		P値(0.05)<0.12		P値(0.05)<0.87		P値(0.05)<0.35	

※a～zのアルファベットは、対象者個人を表す。
 施行前…介入前の評価点数
 施行後…1日3回7日間の評価点数の平均点数
 点数が低いほど口腔内の状態が良好

表4) 口臭・舌苔・乾燥・喀痰に対する3群の評価段階の人数
n=36人

口臭				舌苔			
段階	A	B	C	段階	A	B	C
イソジン	2人	2人	4人	イソジン	2人	0人	6人
穀物酢	4人	4人	2人	穀物酢	4人	3人	2人
緑茶	4人	4人	1人	緑茶	3人	4人	2人

乾燥				喀痰			
段階	A	B	C	段階	A	B	C
イソジン	1人	2人	5人	イソジン	2人	3人	3人
穀物酢	3人	2人	4人	穀物酢	1人	6人	2人
緑茶	1	6人	2人	緑茶	1人	3人	5人

※口腔ケア施行前後の変化を3段階評価
 A…口腔ケア施行後の評価点数が施行前の評価点数より低く、効果が得られた場合
 B…口腔ケア施行後の評価点数が施行前の評価点数と変化がない場合
 C…口腔ケア施行後の評価点数が施行前の評価点数より高く、効果が得られなかった場合
 ※評価は、口腔ケア実施者が口腔ケア施行前に評価

新任職員紹介

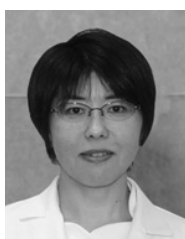


外科医長
くぼた たつお
久保田 竜生

こんにちは。外科の久保田と申します。4月から熊

本医療センターにお世話になることになりました。いろいろな病院で働かせていただきましたが、転勤のたびにフレッシュな気持ちになり、次も頑張っていこうという気持ちになります。とはいえいつの間にかかなりのオジサンになってしまっており、皆様の足手まといにならぬか心配でもあります。お見捨てなきよう何卒宜しくお願い申し上げます。

前任地の熊本再春荘病院外科では腹腔鏡手術が盛んであり、当院でもさらなる研鑽を積んで参りたいと考えております。宜しくご指導のほどをお願いいたします。



糖尿病・内分泌内科医長
おの けいこ
小野 恵子

4月より代謝内分泌センターに赴任することになり

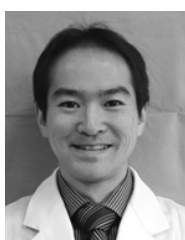
ました。熊本県及び大分県の機関病院、健診施設を経て、平成16年よりくまもと森都総合病院、平成25年より熊本大学医学部附属病院に勤務しておりました。救急医療に力を入れ、大きく貢献している総合病院への勤務は、久しいため、いろいろとご迷惑をおかけすることと存じますが、先生方やスタッフの方とも連携を取りながら、これまでの経験を生かし、患者様に貢献できるよう努力したいと存じます。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。



産婦人科医長
やまもと ふみこ
山本 文子

平成26年4月1日より国立病院機構熊本医療センター産婦人科で勤務させて頂くこととなりました、山本文

子と申します。鹿児島大学を卒業後、平成8年から18年間、鹿児島市立病院産婦人科で勤務しておりました。この度、故郷である熊本の国立病院機構熊本医療センターにおいて、第2の産婦人科人生をスタートさせて頂くこととなりました。お世辞にも将来性や柔軟性があるとは言えず、また熊本の医療事情も全くわからない状況で、先生方やその他のスタッフの方々に多大なご迷惑をお掛けすることと思っておりますが、1日でも早く新しい環境に慣れるよう頑張っていきますので、どうぞ宜しくお願い致します。



循環器内科医長
まつかわ まさかず
松川 将三

初めまして。熊本赤十字病院から来ました松川と申します。市内のいろいろな病院で勤務させて頂きまし

たが、国立は初めてです。これまで経験してきたことを生かして、更に国立が伸びていく様、お役に立てればと思っています。決して特殊技術を持っているわけではないのですが、これまでの「働かされている」という受け身な考え方ではなく、「積極的に引っ張っていく」という志の元、更には自分自身のスキルアップのためにも邁進していこうと考えています。基本的に明るい職場が好きです。みんなが笑顔でいられるような職場作りをしつつ、引き締めるところはきっちり締める、『めりはり』を大切にしていきたいと思ひます。どうぞ宜しくお願いします。

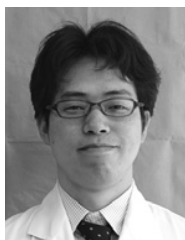


整形外科医長
ひらい ともひろ
平井 奉博

4月から整形外科で勤務させていただく平井奉博と申します。マリスタ学園、福岡大学卒です。専門は股関節で、変形性股関節症はもちろん、原因不明の股関

節痛や化膿性股関節炎なども、お気軽にご相談頂ければ幸いです。これまで人工股関節全置換術を中心に行っておりましたが、今後は股関節鏡や侵襲の小さい寛骨臼回転骨切り術などにも取り組んでいきたいと思っております。最近は大蓋と大腿骨の形態異常から起こるFAI (Femoro Acetabular Impingement) による股関節痛や変形性股関節症が、これまで原因不明であった股関節痛や一次性変形性股関節症の原因として注目されており、関節温存のために早期の手術療法も必要だと言われております。こういった新たな疾患にも対応できるように日々精進を重ねていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

新任職員紹介



呼吸器内科医長
なむら りょう
名村 亮

初めまして。
平成26年 4月 1日より国立病院機構熊本医療センター

に呼吸器内科として勤務させて頂くこととなりました名村亮と申します。熊本大学医学部を平成14年に卒業し、その後は関東で初期研修を修め、東京女子医大病院呼吸器内科に所属し主に関東で勤務していました。そのため、熊本で診療に当たらせて頂くのは今回が初めてとなります。

地元ではありますが、先程申し上げた通り熊本での診療は初めてなため、不慣れなことも多く、御迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、自分なりに一所懸命励んでいく所存ですので、何卒宜しく御願い致します。

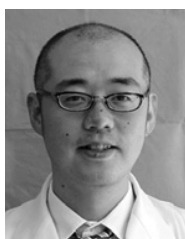


循環器内科医長
まつばら じゅんいち
松原 純一

平成26年 4月より循環器内科に勤務させて頂くこと

になりました松原純一です。

平成15年に熊本大学医学部を卒業後、熊本大学循環器内科へ入局いたしました。2年目の内科研修で、半年間だけですが、当院に勤務させて頂きましたので、10年ぶりに戻ってきたこととなります。10年前に比べ救急患者も増加しており、不安も大きいのですが、少しでも先生方・患者さんのお役にたてるよう頑張りたいと思いますので、御指導御鞭撻のほど、何卒よろしく御願いいたします。



麻酔科医長
こまつ しゅうじ
小松 修治

麻酔科に赴任致しました小松修治と申します。専門は手術麻酔とペインクリニックです。熊本大学医学部

附属病院で初期研修を終えた後、しばらく東京の病院で研鑽を積んで参りました。帰熊し、2年間、大学病院で麻酔業務とペインクリニックの診療を行い、この度、こちらに勤務することとなりました。当院での業務は主に手術室での麻酔となりますが、熊本では数少ないペインクリニック専門医として、行く行くはがん性痛を含めた難治性慢性痛の診療に携わっていきたくと考えております。日々の診療のなかで痛みに関してお困りの先生方がいらっしゃいましたら、いつでもご相談ください。

よろしく御願い致します。



外科医長
さわやま ひろし
澤山 浩

平成26年 4月から勤務させて頂くこととなりました澤山浩と申します。熊本大学医学部を卒業し、熊本医

療センターで初期研修医として勤務致しました。初期研修終了後は、熊本大学消化器外科学に入局し、済生会熊本病院にて3年間、手術を中心とした診療に従事致しました。熊本大学大学院に進学し、新規抗がん剤、癌特異的代謝に関する研究にて学位を取得しております。

今後、消化器外科、消化器病、癌治療を中心とする専門的な医療を実践して参りたいと考えております。一生懸命頑張っ参りますので、ご指導の程宜しく御願い致します。



麻酔科
いそべ なおふみ
磯部 直史

4月より麻酔科で勤務させて頂くことになりました

した磯部直史と申します。熊本大学工学部、鹿児島大学医学部を卒業後、熊本中央病院で初期研修を終了し、熊本中央病院麻酔科、熊本大学医学部附属病院、熊本赤十字病院等で勤務して参りました。熊本医療センターは地域の中核病院のひとつであり、救急医療に力をいれられている病院と伺っております。手術室では安全、確実、迅速な麻酔を心がけ、熊本の医療に貢献できるように一生懸命頑張りたいと思いますので、どうぞよろしく御願いいたします。

■ 研修のご案内 ■

第152回 三木会（無料）

（糖尿病、脂質異常症、高血圧を語る会）
 [日本医師会生涯教育講座1.5単位認定]
 [日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<2群>0.5単位認定]

日時▶平成26年5月15日(木)19:00~20:45

場所▶国立病院機構熊本医療センター研修室2

1. 「多発肝腫瘍を伴った2型糖尿病の一例」

国立病院機構熊本医療センター糖尿病内分泌内科

横井脩、泉香織、坂本和香奈、橋本章子、小野恵子、高橋毅、豊永哲至

2. 「低Na血症、低血糖にて疑われた下垂体機能低下症の一例」

国立病院機構熊本医療センター糖尿病内分泌内科

坂本和香奈、横井脩、泉香織、橋本章子、小野恵子、高橋毅、豊永哲至

なお、興味のある症例、疑問・質問のある症例がございましたら、お持ちいただきますようお願い致します。

【問合せ先】国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科部長 豊永 哲至 TEL 096-353-6501 (代表) 内線5796

第184回 月曜会（無料）

（内科症例検討会）
 [日本医師会生涯教育講座1.5単位認定]

日時▶平成26年5月19日(月)19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

1. 内科基礎講座 貧血の診療について：血液内科

2. 症例検討 「循環器内科からの症例」

国立病院機構熊本医療センター循環器内科部長

藤本 和輝

3. ミニレクチャー「糖尿病/食事指導について」

国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科

小野 恵子

日頃、疑問の症例、興味のある症例、X線、心電図、その他がございましたら、ご持参いただきますようお願い致します。

【問合せ先】国立病院機構熊本医療センター統括診療部長 清川 哲志 TEL: 096-353-6501 (代表) FAX: 096-325-2519

第114回 総合症例検討会（CPC）

[日本医師会生涯教育講座1.5単位認定]

日時▶平成26年5月21日(水)19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

テーマ：『同種骨髄移植後の呼吸不全』

(60歳代 男性)

臨床担当) 国立病院機構熊本医療センター血液内科医長

井上 佳子

病理担当) 国立病院機構熊本医療センター臨床研究部病理研究室長

村山 寿彦

「原発性骨髄線維症にて同種骨髄移植を受けた男性が、3ヶ月後に皮疹、咳と発熱を認め再入院となった」

* 臨床経過の詳細な検討と鑑別診断を行います。最後に病理よりマクロ、ミクロの所見と剖検診断が解説されます。通常のレクチャー（解説）の前に、馴染みの少ない疾患、病態は、その分野に関するミニレクチャーを予定しております。基本的知識を学んだ後で活発なディスカッションをお願い致します。どなたもお気軽にご参加下さい。

【問合せ先】国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501 (代表) 内線2630 096-353-3515 (直通)

第41回 症状・疾患別シリーズ（会員制）

[日本医師会生涯教育講座2.5単位認定]

日時▶平成26年5月24日(土)15:00~17:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

座長：野津原内科医院 理事長

野津原 昭 先生

演題：「高血圧関連疾患」

1. 高血圧症

国立病院機構熊本医療センター循環器内科部長

藤本 和輝

2. 急性動脈解離

国立病院機構熊本医療センター心臓血管外科部長

岡本 実

この講座は有料で、年間10回を1シリーズ（年会費10,000円）として会費制で運営しています。但し、1回だけの参加を希望される場合は1回会費2,000円で参加いただけます。

【問合せ先】国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局

TEL 096-353-6501 (代表) 内線2630 096-353-3515 (直通) FAX 096-352-5025 (直通)

第132回 救急症例検討会（無料）

日時▶平成26年5月28日(水)18:30~20:00

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

症例検討「小児科救急疾患」

国立病院機構熊本医療センター小児科部長

高木 一孝

医師、薬剤師、看護師、放射線技師、臨床検査技師、栄養士、救急隊員、事務部門等、全ての医療従事者を対象とした症例検討会です。医師以外の方にも理解できるよう配慮した内容にしています。

事前参加のお申し込みは必要ありませんので、ご自由にお越しください。

【問合せ先】国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501 (代表) 内線2630 096-353-3515 (直通)

2014年

研修日程表

5月

国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

5月	研修センターホール	研修室
1日(木)	7:30~8:15 二の丸モーニングセミナー	
2日(金)		
3日(土)		
4日(日)		
5日(月)		
6日(火)		
7日(水)		18:30~20:30 熊本地区核医学技術懇話会(研2)
8日(木)	7:30~8:15 二の丸モーニングセミナー	18:30~20:00 熊本県臨床衛生検査技師会 一般検査研究班月例会(研2)
9日(金)		15:30~16:45 肝臓病教室(研2) 「肝臓について」
10日(土)		
11日(日)		
12日(月)		
13日(火)		
14日(水)	18:00~19:30 第86回 国立病院機構熊本医療センター クリティカルパス研究会(公開)	
15日(木)	7:30~8:15 二の丸モーニングセミナー 14:00~15:00 第14回 市民公開講座 「ストレスとこころの健康」 国立病院機構熊本医療センター精神科部長 渡邊健次郎	19:00~20:45 第152回 三木会(研2) (糖尿病、脂質異常症、高血圧を語る会) [日本医師会生涯教育講座1.5単位認定] [日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<2群>0.5単位認定]
16日(金)		
17日(土)	14:00~16:00 第253回 滅菌消毒法講座 「洗浄の基礎 ~ものを洗うために必要なことは?~」	
18日(日)		
19日(月)	19:00~20:30 第184回 月曜会(内科症例検討会) [日本医師会生涯教育講座1.5単位認定]	
20日(火)	19:30~20:30 第33回 熊本摂食・嚥下リハビリテーション研究会 「在宅の嚥下障害対応」 田島医院神経内科医師 田島 和周 安成医院外科・老齢内科医師 安成 英文	
21日(水)	19:00~20:30 第114回 総合症例検討会(CPC) [日本医師会生涯教育講座1.5単位認定] 「同種骨髄移植後の呼吸不全」	
22日(木)	7:30~8:15 二の丸モーニングセミナー	19:00~21:00 熊本脳神経疾患懇話会(研2)
23日(金)		
24日(土)	15:00~17:30 第41回 症状・疾患別シリーズ 「高血圧関連疾患」 [日本医師会生涯教育講座2.5単位認定] 座長 野津原内科医院 理事長 野津原 昭 1. 高血圧症 国立病院機構熊本医療センター循環器内科部長 藤本 和輝 2. 急性動脈解離 国立病院機構熊本医療センター心臓血管外科部長 岡本 実	
25日(日)		
26日(月)		
27日(火)	18:30~20:30 血液研究班月例会	19:00~21:00 小児科火曜会(研1)
28日(水)	18:30~20:00 第132回 救急症例検討会 「小児科救急疾患」	
29日(木)	7:30~8:15 二の丸モーニングセミナー	
30日(金)		
31日(土)		

研1~3 2階研修室1~3

※二の丸モーニングセミナーにつきまして、詳細はホームページ(<http://www.nho-kumamoto.jp/>)をご参照ください。

問い合わせ先 〒860-0008 熊本市中央区二の丸1番5号 国立病院機構熊本医療センター2階 地域医療研修センター TEL 096-353-6501(代) 内線2630 096-353-3515(直通)